

歴史マンガ

西南戦争

二侯編

—天と地の雷—

2020(令和2)年春
熊本県玉東町

「歴史マンガ西南戦争 二侯編 天と地の雷」は
事実を題材にしたフィクションです。

こんにちは

こんにちは—
山北小学校から
来ました—



よう来たね
ウチはすぐ
分かったかい

ささ
あがんなぜ

はい

おじゃま
しま—す

役に立つなら
どがしこでん
話しばししよう

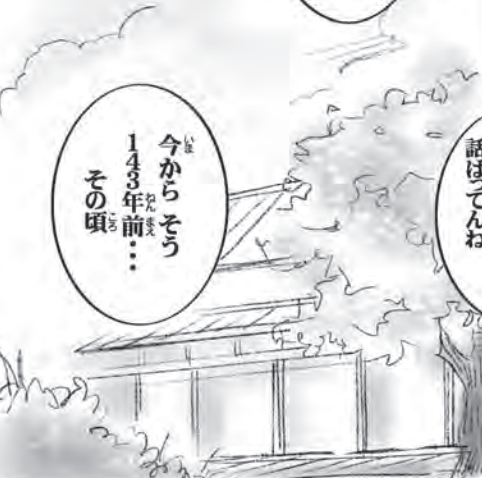
ボクたち
今西南戦争のことを
調べていて特に
二侯砲台について
調べているんです

清田さんが
知ってるよと先生に
教えてもらって...

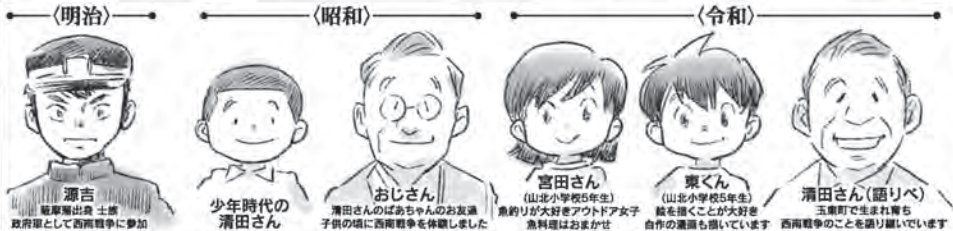
それは
それは

私が子どもの頃に
村の人から聞いた
話ばてんね

今からそう
143年前...
その頃



登場人物紹介



〈明治〉

〈昭和〉

〈令和〉

源吉
(熊本藩出身士族
政府軍として西南戦争に参加)

少年時代の
清田さん

おじさん
(清田さんのばあちゃんのお友達
子供の頃に西南戦争を体験しました)

宮田さん
(山北小学校5年生)
鳥飼りが大好きアウトラ女子
鳥料理はおまかせ

東くん
(山北小学校5年生)
絵を描くことが大好き
自作の漫画も描いています

清田さん(語りべ)
玉東町生まれ育ち
西南戦争のことを語り継いでいます

※このマンガに登場する連之助と源吉は歴史上存在しない架空の人物です。

1960年
熊本県玉東町
二俣地区

こんにちはー

清田少年
きよたしょうねん

ばあちゃんから
おはき作たから
届けてこいて...

あー
こりゃ
ありがとー
うれしかあ

おじちゃん
ここ来る途中で
こんなの拾ったと
ばてん

なんな



こら、
鉄砲の弾
だろか？

確かにそら鉄砲の弾たん
このあたりは西南戦争で
激しか戦いのあつたけんね

ばあちゃんが
言いよつたけど

横平山
よこひらやま

二俣台地
ふたまただい

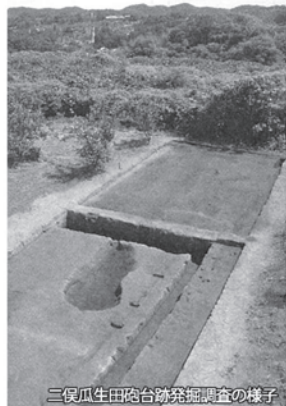
この二俣台地には
政府軍の砲台があつてな
毎日木葉の本営から大砲ば
運んで来て田原坂めがけて
撃ちよつたてたい

田原坂
たはらざか



西南戦争
ミニコラム
①

二俣官軍
砲台跡



二俣瓜生田砲台跡発掘調査の様子



四尺山砲「大砲の発達」1943年より

▲ フランスで開発された大砲。幕末に日本に輸入され、幕府や諸藩でコピー製造されました。西南戦争では両軍で使用されました。全長 96 cm、全重量約 200 kg。最大射程距離約 3 km、有効射程距離約 1 km。



← 摩擦火管

二俣瓜生田官軍砲台跡出土遺物

玉東町の二俣台地は、田原坂の西方に位置する標高約100m程の台地です。田原坂に陣取る西郷軍薩軍を砲撃するために、政府軍はこの台地の攻略を進め、3力所に野戦砲台を築いたといわれています。その内、瓜生田地区と古閑地区の二カ所からは、大砲の発射に使われた摩擦火管という遺物等が出土し、大砲の轍(車輪の跡)と考えられる遺構も検出されています。



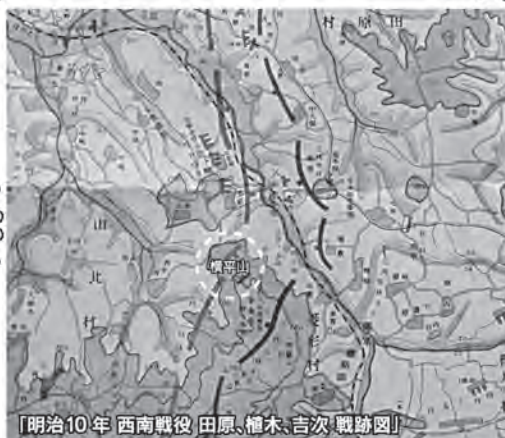
※鎮台：明治4（1841）年から明治21（1888）年に置かれた日本陸軍の軍需の單位。明治6（1873）年の鎮西制鎮行儀は一般から集められた兵士が主となった。西南戦争における政府軍の編成は、鎮台兵を主としたほか、壮兵を集めた近衛兵、北海道の警備や干拓にあたっていた屯田兵、警視局巡査等からなつた。

西南戦争
ミニコラム

●横平山の戦い

横平山は標高144mの山で、南の三ノ岳・金峰山から吉次峠、半高山と北に連なる尾根の末端に位置しています。西郷軍の拠点である田原坂が北東側に、木留本宮が南東側にあり、政府軍の二俣官軍本営出張所が北側直前にあるといった前線基地を守る重要な山でした。

両軍の壮絶な決戦の舞台となったのは明治10年3月15日。一進一退の攻防の末、駆けつけた警視拔刀隊50名が加わったことで戦況は急展開し、政府軍が横平山を奪取しました。その時間わずか5分間であったといわれています。この横平山の戦いは、西南戦争の三大激戦地の一つにあげられるほどの戦いで、警視拔刀隊のほとんどが死傷しました。



「明治10年 西南戦役 田原、横木、吉次 戦跡図」

刀で斬りあうてな
あかん時代劇のごたるとじゃ
なかとぞ

鉄砲もえすかばうてん
日本刀というはもちえすか
ひと振りて腕や脚が
斬られるところか
死ぬかんしれん

転がり回て
ちゃんばらごうじゃ
なかつたてたん



今は穏やかに
見えるこの辺りで
そんな戦いが
あつたといね

横平山

二俣台地

そうじゃ
見てみ

最初に話した台場と田原坂は
1キロメートルほどの距離じゃ
この狭いところで
総勢約2万4千人の兵士たちが
戦い、約4千人の兵士が
命を落としたんじや

田原坂

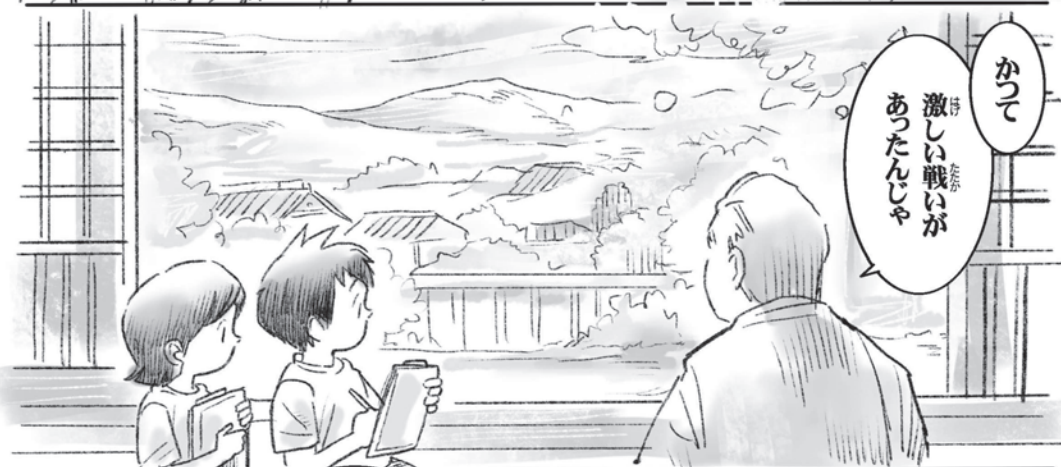






ここから
見える山々や
村の中で...

今は穏やかな
玉東町の景色ばつてん



かつて

激しい戦いが
あったんじゃ



どがんだろか
少しは役に
立ったかね

はい

とても
ためになる
お話でした

もともと
知りたくまりました
これからもいろいろ
調べていきたいと
思います!

ありがとう
ございましたー

また
いつでん
きなうせ



「吉次峠編」に続く...